



コラム執筆者
 篠山市原子力災害対策
 検討委員
 守田敏也さん

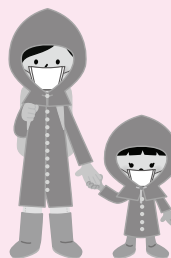
第3回 「原発事故にどう備える？」

福井県の原子力発電所でもし事故が起きた場合、篠山市にもその影響が及ぶ恐れがあります。ここでは、守田敏也さんによるコラムや、市の取り組みについて、その影響や放射能のこと、災害にどう備えるかをテーマに3回に分けて紹介します。

※原子力発電所の是非を問うものではありません。

問い合わせ 市民安全課 ☎552-1116

家を出るときの服装



- ・マスク
- ・フード付きのかっぱ
(フードが無い場合は帽子)
- ・長袖長ズボン
- ・ビニールの手袋
- ・長靴

まねしてください。その場合、マスクは頻繁に取り換え、衣服も避難先で着替えることが必要です。

放射性ヨウ素に備えて安定ヨウ素剤を事前(24時間以内)に飲むことも大事。篠山市はすでに市民分を備蓄し、配布方法を検討していますが、手に入らない場合は昆布のだし汁20杯分を煮詰めて飲むことでも代用できます。ただし乾燥昆布はお腹で膨れて危ないので食べないでください。

重病の家族がいるなど tossa の避難が困難な場合は、家の中に立てこもる用意をしておきます。普段から水と食料を備蓄し、緊急時には外気の取り込みをできるだけ減らします。篠山市ではこうした自力で避難できない方のケアを中心に避難の準備を進めています。

ともあれ核心は「とっとと逃げる」ことです。原発災害から命を守るための準備を重ねておきましょう。

ポイント

- 何より「とっとと逃げる」ことが一番
- 緊急避難を遅らせる原因「正常性バイアス」に注意
- もしもの際の避難先や、持ち出す物などをあらかじめ決めておく

災害心理学ではあらゆる災害時に緊急避難を遅らせる「正常性バイアス」への注意を呼びかけています。とっさの時に事態は正常に戻ると思い込み、危機を認識しないで心を保とうとしてしまう心理です。例えば火災報知器が鳴っても「誤報じゃないの?」と思い込み、避難をためらって逃げ遅れてしまう。このわなにかからないためには、準備と訓練が大事です。

篠山市の場合もたくさんの放射能が飛んでくるかもしれないので「とっとと逃げる」ことが一番です。その場合、どこに逃げて家族と落ち合うのか、何を持ち出すのかなどあらかじめ決めておきます。遠くの知人と、災害に見舞われた場合に互いを避難先にすることを約束しておくともあらゆる災害に適用できます。

放射線は事故直後に一番たくさん出るので、事故の見極めなどせず、できるだけ早く逃げることも打ち合わせておきましょう。緊急時の連絡方法を決めておくことも大切です。携帯電話が使えない場合を考え、大事な連絡先はメモをしておきましょう。

避難の時は放射能雲に追いつかれる場合もあるので、被ばくを減らす用意もしておく必要があります。一番重要なのは身体に放射能を入れないようにすること。インフルエンザや花粉症への対策が有効ですので、そっくり

防災訓練に参加しよう

いざというときの知識はあるけれども、実際に災害が発生した時にはパニック状態に陥り、防災知識も十分に発揮できないことがあります。地域で実施される防災訓練などに参加し、技能を身に付けておくことも大切です。市民一人ひとりの防災意識の向上と地域コミュニティの輪が、結果的には、自分たちや地域を守ることに繋がります。

